



FUKUOKA MUSEUM ARTS

NEW YEAR'S ART

あじびニュース
Fukuoka Asian Art Museum News
Ajibi News

GO AROUND NEW YEAR'S ART

あじびニュースvol.89

2023年1月1日発行

企画・編集・発行：福岡アジア美術館

編集・執筆：瀬口賢一（コモン編集室）

デザイン：長末香織

印刷：株式会社四ヶ所

新春。ことはじめの正月。初々しさと清々しさに包まれる我が身を、今年も真っ先にアートの旅へと連れ出すことにする。ここではひとつ新年にちなみ、はじまりのアルファベット〈A〉をテーマに。私の好奇心を突く晴れがましい〈NEWYEART/ニューイヤーアート〉を求めて。

https://faam.city.fukuoka.lg.jp/
WEB



ART COLLECTIONS 2023.1.2月—3.21火 福岡アジア美術館 コレクション展

アジア23ヶ国・地域の多様なジャンルの作品の中から構成する、向こう3ヶ月の主な展覧会をご紹介します。

ART COLLECTIONS



チット・ブアブット[タイ]《上野公園、東京美術学校》1942年
Chitr (Prakit) Buabussaya (Thailand) Ueno Park, the Tokyo Academy of Fine Art, 1942



キンスウェーウィン[ミャンマー]《1980年11月15日》1981年
Khin Swe Win (Myanmar) 15th November 1980, 1981

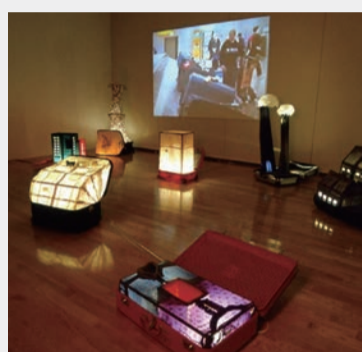
Exhibition01
旅立ちのとき *Time of Departure*
受験や卒業を経て新たな生活へと旅立つ季節にあわせ、卒業や旅立ち、学び舎をテーマにした作品を紹介。タイを離れ日本で学んだ作家が桜咲き誇る春の学び舎を描いた作品など、人生の折々に寄り添うような作品を見つめながら、あなた自身の大切な思い出を振り返ってみましょう。

AJIMI 逸品を“味見”（予行鑑賞）して、本展に備える！
キンスウェーウィン[ミャンマー]《1980年11月15日》
画面の中央には、ガウンと角帽を着た人物と、その隣に座る人物。何故かふたりの顔は白いままだ残されています。この作品は、作者の大学の卒業式の思い出に基づいて、大学を卒業しても仕事をもらえない学生が多いことに着想したものです。ミャンマーでは、卒業写真を家の居間に飾る習慣があります。画面のふたりの顔が白いままなのは、親た人がそれぞれの卒業式の大切な記憶や気持ちを重ねられるようにという、作者の思いが込められているのです。



アマンダ・ヘン[シンガポール]《発展・もうひとりの女 #4》1998年
Amanda Heng (Singapore) Development/Another Woman #4, 1998

Exhibition02
「私」から問う —アジアの現代写真 I
Ask Myself First: Asian Contemporary Photography I
写真作品が盛んに制作され始めた1980年代以降の、作者自身を写した作品を紹介します。



イン・シウゼン(尹秀珍) [中国]《スーツケース2001》
2001年 Yin Xiuzhen (China) Suitcase 2001, 2001
photo by Gondou Makoto

Exhibition03
境界を行き交う —アジアのインスタレーション I
Crossing Borders — Installation Art of Contemporary Asia I
2000年代以降に制作されたアジアの大型インスタレーション作品を紹介します。



Exhibition04
あじびレジデンスの部屋 第3期
Room for FAAM Residence Program Part III
「アバ・カバール(元気ですか)? ニンディティオ」
Nindityo Adipurmono: Apa Kabar ?
インドネシア現代美術の一大ムーブメントを起こしたキーパーソン、ニンディティオ。若き日にあじびに滞在したときの制作記録、また所蔵作品からその活動に迫ります。

Exhibition05
あじびコレクションX「POSTWAR / 戦後」
Ajibi Collection X POSTWAR
今なお戦争に苦しむ国が世界にあふれるなか、ベトナム、カンボジアの人々にとっての戦後(POSTWAR)とは。

Exhibition06
アジアの近現代美術—黎明期から現代まで
Modern and Contemporary Asian Art: From Its Dawn to the Present Day
アジア近現代美術の代表的な所蔵作品で、19世紀から現代までのアジア美術の流れをたどります。

表紙作品紹介
Fang Lijun (China) Series 2 No.3, 1992
ファン・リジュン(方力鈞) [中国]
「シリーズ 2 No.3」(1992年)
作者は自らをモデルに、同じ顔で同じ笑みを浮かべる人物を繰り返し描きました。社会の不条理に対する作者の鋭い眼差しが、歪んだ笑みの奥から浮かび上がるようです。本作はコレクション展「アジアの近現代美術」に出品中。

「ヒンドウの神様相関図」を常に携帯できるよころび!?
当館で2022年1月〜3月に開催した特別展「ヒンドウの神々の物語」。その際に展示、配布され人気を博した「ヒンドウの神様相関図」がA4クリアファイルになって登場!
福岡アジア美術館のコレクションをもとに製作されました。

ご利益あれ〜
ヒンドウの神々の美しさのみならず、デザインを通して「夫婦・配偶神」、「化身」、「変身系」、「兄弟」、「姉妹」などの関係性が学べます。これから宗教図像を鑑賞する際、どのような場面を描いているのかを紐解く資料にも、会話が広がるお土産としても!

[販売場所]
福岡アジア美術館ミュージアムショップ ロンホア
福岡市文化芸術振興財団オンラインショップ
https://ffac.shop-pro.jp/

ANNIVERSARY DAY あなたの故郷や国では新年、どう過ごしてる? NEW YEAR'S CELEBRATION IN ASIA!

Q1 あなたの故郷や国では、どのように新年をお祝いしますか?
How do you celebrate your new year in your place or in your country?

A1 台湾では旧暦(太陰暦)によるお正月(旧正月)を祝います。家族みんなで集まりごちそうを食べますが、食べ切らずに翌日の昼食として少し残しておきます。これは豊かな一年になることを願うものです。夕食が済んだら年長者が(偶数または縁起の良い額でお金が入った)赤い封筒のお年玉を子どもに渡して、一緒に思い思いに過ごします。

A2 毎年、旧正月には福を呼ぶための大掃除をします。

Q2 新年を祝う際に欠かせないものはなんですか?
What are the must-haves for you to celebrate the New Year?

A1 韓国では新年のお祝い2回あります。1月1日と旧正月です。大晦日に人々はソウルの鐘路に集まり、元日には普賢閣の鐘が33回鳴る音を聞きます。そして日の出を見て新年を迎えます。

A2 旧正月にはみんなが韓服を着てご先祖さまや年長者へ挨拶をします。子どもはお年玉をもらいます。私は家族とお餅のスープをいただきます。新しい年を迎えるのにこのスープを食べるのがよいとされています。

Exhibition07 新年の花火

Artist in Residence Program at Fukuoka Asian Art Museum

第2期レジデンス成果展ついに開催! コロナ禍による中断を経て3年ぶりに再開したあじびのレジデンス事業。第2期レジデンスアーティストとして福岡に滞在した3名による成果展「境界を縁どる一石、呼吸、埋立地」が、12月3日〜11日まで開催されました。それぞれ全く違う表現を追求してきた3人が福岡滞在を通して辿り着いた「境界」とは、どんなものだったのでしょうか。編集部による特別レポートをお届けします。

2022.9月-12月 第2期アーティスト滞在制作作品

Onishi Yasuaki
大西康明 [日本]
境の石 室見川
Onishi Yasuaki (Japan), Stone on Boundary The Muromi River

Soh Souen
ソー・ソウエン [福岡]
Bellybutton and Breathing—お臍と呼吸。(エグザサイズ)
Soh Souen (Fukuoka), Bellybutton and Breathing, Eggsizes

Keng Chieh-Sheng
ゴン・ジェション [台湾]
水循環ウォーターサイクル
Keng Chieh-Sheng (Taiwan), Water Cycle

ARTISTS' INTRODUCTION 福岡滞在アーティストは、\ここ/にいます!

3期アーティスト紹介

下寺 孝典 [日本]
Shimodera Takanonori
現在失われつつある福岡の屋台を中心としたまちの風景について社会学や都市史の研究を行う専門家に知見を借りながらフィールドワーク調査を実施。それらをまとめたインスタレーション作品を発表予定。

長野 櫻子 [福岡]
Nagano Sakurako
主眼は自己と他者の関係。コロナ禍により社会から孤立した人たちの孤独に焦点を当て、インタビューを行うことで、過去の記録を残すとともに、鑑賞者それぞれに寄り添う作品を制作予定。

ドクペラルー [ベルギー]
Docquieru José Belacó & Jimena Mora
地域の人々、歴史に密着した人たちの距離ドキュメンタリー映画の制作を通して、福岡市に存在する様々な記憶、人物、伝統、慣習の正当性を証明するプロジェクトを実施予定。

Artist Cafe Fukuoka
1 旬のアート情報を入手する!
コミュニティスペースでは市内の美術館やギャラリーで開かれる展覧会情報が盛りだくさん。

Artist Cafe Fukuoka
2 カフェ利用の延長で
コミュニティスペース内にあるカフェ(Teatlet)で一息つきながら、様々なアート系書籍を楽しむ。
※木曜日のみ営業(取材時点)

Artist Cafe Fukuoka
3 足跡見ながらそのまま!
国史跡の「福岡城跡」や「鴻臚館跡」とともに四季折々の自然を堪能できたら、アーティストカフェに登場!

Artist Cafe Fukuoka
4 福岡市美術館とのハシゴ
レジデンス内の制作風景や展示に親しんだ後は、徒歩8分の距離にある福岡市美術館にも足を運ぼう!

Artist Cafe Fukuoka
5 あじびまでの道すがら楽しむ
あじびの下川端町までは公共交通機関に加え、自転車移動もおすすめ。変わりゆく天神や中洲の情景も一興。

FaN
Fukuoka Art Next

ACCESS: ARTIST CAFE